

国語復習プリント古文①（用言の復習）

1 解答欄の動詞の活用表を完成させなさい。

2 傍線部の動詞について、活用の種類と活用形を答えなさい。

- ① 戸をたたく人ありと聞けど、
- ② 春来れば雁帰るなり
- ③ 足にて枕をはたとぞ蹴たりける。
- ④ その時、悔ゆともかひあらむや。
- ⑤ たとひ広く作れりとも、誰を宿し、誰をか据ゑむ。
- ⑥ 病をうけ、子うみ、死ぬることのみ、機嫌をはからず。
- ⑦ たよりごとに物も絶えず得させたり。
- ⑧ 落つれども軒にしられぬ玉水は
- ⑨ そのみかどのみこ崇子と申すいまそかりけり。
- ⑩ 打ち割らんとすれど、たやすく割れず。
- ⑪ ただ水の泡にぞ似たりける。
- ⑫ 雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをか

3 傍線部の動詞を終止形に直しなさい。

- ① 鬢にせむとて抜くなり。
- ② 夜ふけて来れば、所々も見えず。
- ③ 武蔵野へ率て行くほどに、
- ④ 野中に岡だちたる所にただ木ぞ三つ立てる。
- ⑤ あやまちすな。心して降りよ。
- ⑥ 身を助けんとすれば、恥をまかへり見ず、
- ④ 空欄に（ ）内の動詞を正しく活用させて入れなさい。
- ① 花もみな咲きぬれど音も「　　ず。（す）
- ② ゆく河の流れは「　　ずして、しかもとの水にあら

- ③ ある人弓「　　ことを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。（射る）
- ④ 聞きしにも「　　て、尊くこそおはしけれ。（過ぐ）
- ⑤ つれづれ「　　人は、いかなる心ならん。（詫ぶ）
- ⑥ 何にかあらむ。雀の落として「　　物は。（往ぬ）
- ⑦ 「　　ども、えまねばず。（まねぶ）
- ⑧ 徳大寺にもいかなるゆゑか「　　けむ。（はべり）

5 解答欄の形容詞の活用表を完成させなさい。

6 傍線部の形容詞について、活用の種類と活用形を答えなさい。

- ① 昔より、かしき人の富めるはまれなり。
- ② いと幼ければ、籠に入れて養ふ。
- ③ そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。
- ④ 鬼にやあらむと思ひて恐ろしけれども、
- ⑤ 友とするにわろき者、七つあり。
- ⑥ 桜のめでたく咲きたりけるに、
- ⑦ 春立てど花もにははぬ山里は物うかる音に鶯ぞ鳴く
- ⑧ 月明かければ、いとよく有様見ゆ。

7 傍線部の形容詞の用法を、あとのア～エから選びなさい。

- ① 山高み見つつ我が来し桜花風は心に任すべらなり
- ② いで、あな心憂。これ仰せられよ。
- ③ をかしの御にほひや。
- ④ あやしがりて寄りて見るに、
- ア 感動的な表現になり、文を言い切る
- イ （格助詞がついて）連体修飾語になる
- ウ 接尾語がついて他の品詞になる
- エ 接尾語がついて、原因・理由を表す

8 解答欄の形容動詞の活用表を完成させなさい。

9 傍線部の形容動詞について、活用の種類と活用形を答えなさい。

- ① 世界の男、あてなるもいやしきも、
- ② 漫々たる海上なれば、
- ③ 涼風颯々たりし夜半ばに
- ④ この児のかたちのけうらなること世になく、
- ⑤ 松吹く風索々たり。
- ⑥ 佳景寂寞として、心すみゆくのみおぼゆ。

基本形	下に続くおもな語												語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
おはす	来	老ゆ	減ぶ	射る	植う	経	蹴る	あり	往ぬ	思ふ	住む									
おは	〔く〕	お	ほろ	〔い〕	う	〔ふ〕	〔け〕	あ	い	おも	す									
せ	こ	い	び	い	ゑ	へ	け	ら	な	は	ま	―む	―ず							
し	き	い	び	い	ゑ	へ	け	り	に	ひ	み	―て	―たり							
す	く	ゆ	ぶ	いる	う	ふ	ける	り	ぬ	ふ	む	―切る	―言い							
する	くる	ゆる	ぶる	いる	うる	ふる	ける	る	ぬる	ふ	む	―こと	―とき							
すれ	くれ	ゆれ	ぶれ	いれ	うれ	ふれ	けれ	れ	ぬれ	へ	め	―ども	―ど							
せよ	こよ	いよ	びよ	いよ	ゑよ	へよ	けよ	れ	ね	へ	め	―する	―命令							
サ行変格	カ行変格	ヤ行上二段	バ行上二段	ヤ行上二段	ワ行下二段	ハ行下二段	カ行下二段	ラ行変格	ナ行変格	ハ行四段	マ行四段	○行変格	○行○段							

⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	2
〔ヤ〕	〔ナ〕	〔サ〕	〔ラ〕	〔タ〕	〔ア〕	〔ナ〕	〔ワ〕	〔ヤ〕	〔カ〕	〔カ〕	〔カ〕	
行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	
下二段	上一段	変格	変格	上二段	下二段	変格	下二段	上二段	下一段	変格	四段	
活用〔・〕	活用〔・〕	活用〔・〕	活用〔・〕	活用〔・〕	活用〔・〕	活用〔・〕	活用〔・〕	活用〔・〕	活用〔・〕	活用〔・〕	活用〔・〕	
連体	連用	已然	連用	已然	未然	連体	未然	終止	連用	已然	已然	
形	形	形	形	形	形	形	形	形	形	形	形	

④	①	3
〔立つ〕	〔す〕	
〔降る〕	〔見ゆ〕	
〔助く〕	〔率る〕	

①	「せ	「	②	「絶え	「	③	「射る	「	④	「過ぎ	「
⑤	「詫ぶる	「	⑥	「往ぬる	「	⑦	「まねべ	「	⑧	「はべり	「

5

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
下 に 続 く お も な 語	よ	から <small>く</small>	かり <small>く</small>	し	かる <small>き</small>	けれ	かれ	ク活用
よし	よ	から <small>く</small>	かり <small>く</small>	し	かる <small>き</small>	けれ	かれ	ク活用
なし	な	から <small>く</small>	かり <small>く</small>	し	かる <small>き</small>	けれ	かれ	ク活用
あやし	あや	しから <small>しく</small>	しかり <small>しく</small>	し	しかる <small>しき</small>	しけれ	しかれ	シク活用
憂し	う	から <small>く</small>	かり <small>く</small>	し	かる <small>き</small>	けれ	かれ	ク活用
をかし	をか	しから <small>しく</small>	しかり <small>しく</small>	し	しかる <small>しき</small>	しけれ	しかれ	シク活用

6

①	「ク	活用	「	連体	形	②	「ク	活用	「	已然	形
③	「シク	活用	「	已然	形	④	「シク	活用	「	已然	形
⑤	「ク	活用	「	連体	形	⑥	「ク	活用	「	連用	形
⑦	「ク	活用	「	連体	形	⑧	「ク	活用	「	已然	形

7

① 「エ
「
② 「ア
「
③ 「イ
「
④ 「ウ
「

8

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
下 に 続 く お も な 語	し ず か	なら	なり <small>て</small>	なり <small>（言い切る）</small>	なる <small>（とき）</small>	なれ <small>（ども）</small>	なれ <small>（命令する）</small>	○活用
静かなり	しずか	なら	なり	なり	なる	なれ	（なれ）	ナリ活用
あはれなり	あはれ	なら	なり	なり	なる	なれ	（なれ）	ナリ活用
朗々たり	ろうろう	（たら）	たり	たり	たる	（たれ）	（たれ）	タリ活用

9

①	「ナリ	活用	「	連体	形	②	「ナリ	活用	「	連体	形
③	「タリ	活用	「	連用	形	④	「ナリ	活用	「	連体	形
⑤	「タリ	活用	「	終止	形	⑥	「タリ	活用	「	連用	形